

第 章 伊勢湾沿岸の現状と評価

第 1 . 伊勢湾と時代の潮流

1 . 伊勢湾の状況と社会情勢

伊勢湾は、その周辺地域の気候、大気循環、水循環、生態系と深い関わりを持っている。中でも、伊勢湾流域では古くから山海の幸に恵まれ、農業、漁業や交易などの人々の営みが活発に行われ、地域独自の文化が育まれるなど、人々は伊勢湾から多くの恵みを楽しんできた。

その後も、伊勢湾流域では、国土の中央に位置する地理的条件や交通条件を背景に、個性ある「まち」が発達し、多様な産業や文化が育まれ、我が国の歴史を形作る上で重要な位置を占め続けてきた。

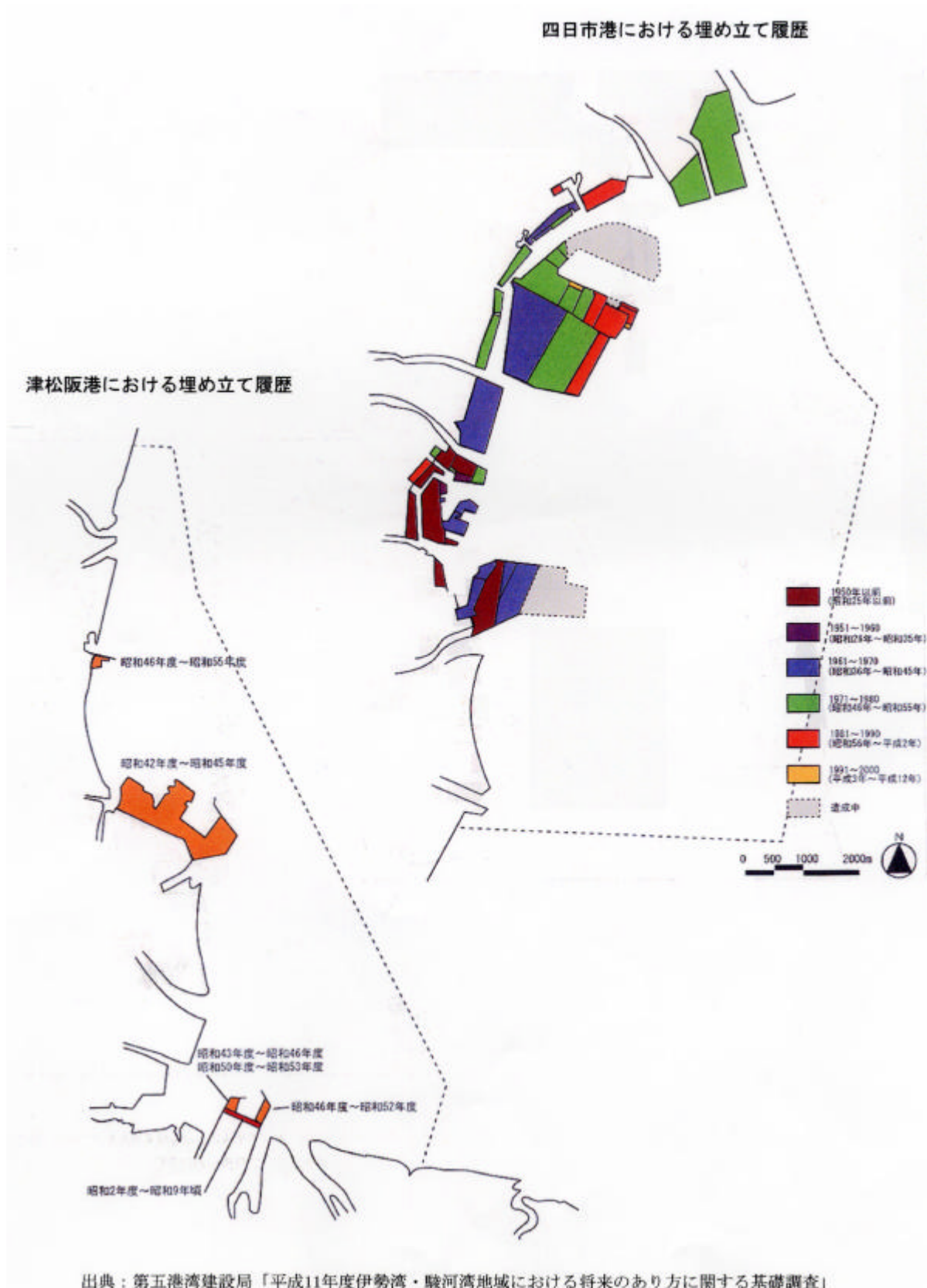
第二次世界大戦後は、臨海部における製造業の発達により、わが国の高度経済成長に大きな貢献を果たしてきたが、その過程で伊勢湾は埋め立て等により、すぐれた環境保全機能を有する干潟・藻場等が減少してきた。

一方で、伊勢湾と人間との関わりは、台風、津波、高潮、海岸浸食等の自然災害との戦いの歴史ともいえ、伊勢湾台風をはじめ、集中豪雨、洪水等は自然の脅威をまざまざと見せ付けてきた。

このため、伊勢湾では自然災害から人命と財産を守るために海岸保全施設等が整備されたが、その代償として海と遮断された空間が広がった。

21世紀に向け、伊勢湾流域はこれまでのモノづくりの面での優位性を生かしながら、先端的産業技術の世界的中枢圏域としての役割を果たすとともに、広域的な交流拠点性を高めていくことが求められている。

図2 - 1 四日市港並びに津松阪港における埋め立ての変遷



2. 時代潮流

(1)地球時代の到来

世界経済の相互依存関係の高まりとともに、人、物、情報、文化をはじめとするあらゆるものがボーダレス化している。経済大国である日本としては、国際社会での地位に相等的な国際協調、国際相互理解等への貢献、南北問題、地球環境問題等の解決への対応が求められており、地域からの国際貢献・交流が重要となっている。

伊勢湾沿岸においても、わが国を代表する国際的な産業・技術の集積地としての期待が高まっており、中部新国際空港・名古屋港・四日市港等が整備された国際交流の玄関口にふさわしい利用が求められている。

(2)自然との共生意識の向上

急激な人口の増加や大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済活動の拡大に伴う環境への付加は、自然の浄化作用の範囲を超え、地球の温暖化、オゾン層の破壊、野生生物の種の減少など今日の地球規模での環境問題となっている。

こうした中、健全で恵み豊かな環境を確保することが、健康で快適な人間生活にとって欠くことのできないものであるとの認識が深まっている。

伊勢湾沿岸においては、四日市公害を克服してきた知識を活かし、人間と自然との共生に資する技術開発やシステムの構築の分野について先導的な役割を果たすことが求められている。

さらに、都市化、工業化の進展に伴い、閉鎖性水域である伊勢湾の水質・底質が悪化し、生態系に大きな影響を与えていることから、海域への汚濁負荷を低減していくことが求められているとともに、海域における、藻場、干潟などが有する浄化機能、生態系保持機能等についても再評価が高まっている。

これら、自然と人間との共存をめざし、健康で文化的な生活を営む上で欠くことのできない良好な環境を確保し、次世代にこれを継承すべきとの気運が高まっている。

(3)産業の構造変化

東アジア諸国の急速な経済発展や欧州経済統合などにより、世界的な大競争時代の到来や生産活動の国際分業化が進展している。

我が国における産業構造は、第3次産業の進展、第2次産業における非生産部門（研究開発、企画、販売等）の重視など経済のソフト化、サービス化が進んでいる。

伊勢湾沿岸においては、第2次産業のウェイトの高い産業を有しており、この特性を生かしつつ高度技術の開発と活用、デザイン等のソフトの充実に努めるとともに、高次サービス機能の充実に努めるため、経済のソフト化、サービス化に対応していくことが求められている。

そのためには、科学技術水準の向上や、知識、技術を集約した研究開発機能の充実に努めることによる産業の高度化と高付加価値化、新産業の創造や、教育、レジャー、福祉、情報など需要が高まりつつあるサービス産業の展開が求められている。

第1次産業においても、第2次・第3次産業との複合化や高付加価値化を進めるととも

に、地域づくりと一体化した産業振興を図っていくことが必要になっている。

(4)高度情報化の進展

現在、通信技術、情報処理技術の進展を背景に多様なニューメディアや各種情報通信システムによりネットワーク化された高度情報化が進んでいる。

このような社会にあつては、知的資源の価値や情報資源の価値がますます高まっている。時間的、空間的距離を越えてすべての人に情報が開かれることにより、情報の共有化が進み、地域間格差が解消される方向に向かうことが期待されている。

伊勢湾沿岸においても、高度な産業・技術の集積を生かし、通信技術、情報処理技術などの分野における研究開発、人材育成等で先導的な役割を果たすことが求められている。

(5)少子高齢化の進展

生活水準や医療技術の向上により急速に高齢化が進展する一方、家族観の変化や女性の社会進出等の影響により少子化が進んでいる。21世紀初頭には人口減少局面に移行し、経済面での投資余力の減少や医療・介護面での負担増が懸念される。

健康で自立した高齢者がその経験と知識を活かして、労働や地域社会での活動、地域文化の継承などさまざまな分野において活躍したり、女性の社会参加が促進され、子どもを生き育てやすい環境が整えられるなど、社会の仕組みや考え方を転換していくことが必要となっている。

また、少子高齢化の進展は、第一次産業の担い手の減少をもたらし、食料や木材の安定供給や国土保全などの大切な役割が損なわれてきている。

伊勢湾においても、魅力的な第1次産業の再構築や、担い手の確保・育成が求められている。

さらに、伊勢湾に関連する文化の継承の担い手としても高齢者や子どもの役割が増大していくことが予想される。

(6)価値観の変化・多様化

経済成長とともに所得の増加と生活水準の向上、自由時間の増大によって、経済的豊かさだけでなく、精神的、文化的豊かさやゆとり、生活の快適さが求められている。一人ひとりが精神的な充実感や満足感を求め、個性や能力を發揮しながら主体的に行動するようになるとともに、地域や個人によってニーズが多様化している。

伊勢湾においては豊かな自然環境に恵まれるとともに開発のポテンシャルが高いことから、計画的に社会資本整備を進めることにより、暮らしの豊かさとゆとりの実現が可能となるような圏域づくりを進める必要がある。とりわけ、伊勢湾の多様な利用について、「人と自然の共生」を基軸としたルールづくりを行うことが求められている。

(7)地域の時代

地方分権が進められる中、各々の地域で特性を生かした個性豊かで魅力ある地域づくりが展開されつつある。しかし、自立的な地域づくりには地域における自己責任が強く求められることから、地域を共有する多様な主体間での協働による取組が不可欠である。

伊勢湾沿岸においても、古来より海運による交易・交流が盛んで、地域独自の歴史・文化が豊富なことを生かし、交流の拠点を形成することが求められる。また、伊勢湾の利用と保全にかかる調整システムの構築に向けて、地方自治体を中心とした民間企業・漁業者・住民・NPO団体等による協働が求められている。